自分のことのように、被災地の今を感じる。はるな愛さんと変わり続ける南三陸町へ。

当時自分ができたことは楽しい想い出を渡すこと

「わあ！おいしい！」キラキラしてる！」。同じ三陸町の仮設住宅で、「南三陸キラキラ丼」って言うんですよ、海と太陽と人の表情がキラキラしてほしいという願いが込められています」案内してくれた南三陸ホテル観洋の女将、阿部憲子さんの言葉に「本当に素晴らしいちゃっこ」と海の恵みを絶賛します。

はるなさんが町を訪れるのは6回目。農災直後は約期所などを訪問しました。「なにかしたい」と思ってにかく「来てみたら、みんな、私の顔を見て、手を振ってくれんんです。『愛ちゃん、来たの？』、嬉しそうな顔をしてくれて。」

三陸ホテル観洋は、震災直後から地域住民の避難所になった場所。ロビーには、当時から現在までの様子が展示されています。

「自分が来たことで、ちょっとでも人の役に立てるんだなと思ってます。私も被災をしたけれどもすぐ元気になれたのは、いやだなって思ってる人たちが、みんなが、『愛ちゃん、来てくれてありがとう』って言ってくれたから。私が今感じていることをみんなにも感じてほしい」

次に来たいと思ったのは、今年の3月3日にオープンした南三陸さんさん商店街。元気になってもらうことを願っています。南三陸さんさん商店街も元の市街地から約10m盛り土した上に建てられました。まるでピラミッドを作っているような風景を前にしたこの景色は、もう今までとは違うものになっていくんだなって思ってます。「ここは、今までとは違うものになっていくんだなって思ってます。『ここは、一歩一歩が出て、南三陸町の今を見に来てほしいって、これからも伝えていきたいって思います。」

南三陸キラキラ丼町内の各店で多彩な丼を味わえます。

南三陸さんさん商店街にて
鮮魚店「ロイヤルフィッシュ」で、生きたタコに大興奮のはるなさん。

旧高野会館
震災当時、職員と避難した300人以上の命を救いました。

南三陸ホテル観洋の女将とともに語り部バスアーを。ホテル外観で行う語り部ホールでは話を聞きました。

PROFILE

はるな愛 はるな・あい

1972年、大阪府出身。タレントや歌手として数多くのテレビ番組に出演するほか、実業家として飲食店なども経営。東日本大震災直後から岩手と宮城に、避難所や仮設住宅での慰問や、炊き出し支援などに従事した。

南三陸の海を見ながら、「南三陸キラキラ丼」を

今しか見られない景色と きらめく海の幸を 感じに来てほしい。

NOW IS. 「Talk Session」 南三陸

今月のガイド

南三陸町
南三陸ホテル観洋　女将

阿部憲子（あべのりこ）さん

☎0226-46-2442

父親が創業したホテルを引き継ぎ、精力的に活動する阿部さん。震災前から南三陸町へ観光客を誘客する必要性を感じ、「南三陸キラキラ丼」をPRするなど観光資源の掘り起こしを行ってきました。震災後は、変わりゆく町の現状を知ってほしいと「語り部バスツアー」を運行しています。「私はあの日、父からチリ地震津波のことを聞いていたから、状況に即した現場の判断をし、行動をすることができました。私たちは、今回の震災の教訓を語り継がなければいけない。南三陸で見たことが、未来の防災に役立ったらと思っています」。語り部バスツアーは、朝8時45分から1時間程度開催。大人500円で、要予約。

取材こぼれ話 Voice from STAFF

南三陸てん店（てん）まっぷ

商店街以外にも、新しいお店が建っている南三陸町。お店は主要道路から少し入っているなど点在しています。観光客だけではなく、住民の人たちにも利用してもらいたいと「南三陸てん店まっぷ」が平成25年から毎年発行されています。志津川地区や歌津地区などの施設が細かく記載されているので、ぜひこのマップを片手に「点々」と点在する町内の商店や観光施設を「転々」と巡ってみてください。

NOWIS.13
宮城県震災復興本部

宮城県の東日本大震災死者数（関連死含む）10,558人　行方不明者数 1,233人　平成29年3月31日現在宮城県危機対策課調べ